

演 題 名	銘柄豚生産における豚慢性疾病対策の検討		
発 表 者 氏 名	久保田 和弘	所 属	飯田家畜保健衛生所
<p>牛肉の輸入自由化と輸入豚肉の増加は、国産豚肉生産に大きな影響を与えることが懸念されている。それに対処するため、当所管内のA地区（農家戸数18戸、繁殖頭数320頭、肥育頭数2,500頭）では、系統造成豚を導入し、安全性、斉一性、良質肉の生産を図り、付加価値の高い銘柄豚生産を行っている。</p> <p>そこでA地区養豚農家に対して、生産性に大きな影響を与える慢性疾病対策（豚萎縮性鼻炎、豚ヘモフィルス感染症、豚流行性肺炎）として、調査・検査を行うとともに、と畜検査データを分析検討。それぞれの疾病ごとに衛生対策プログラムを作成し実施するよう指導した。</p> <p>対策の効果判定として、昭和62年度から平成2年度に管内全域において調査戸数延べ236戸、調査頭数1,120頭を対象に慢性疾病の調査を実施したため、A地区と検査成績を比較検討。</p> <p>検討会、月例会を通じて清浄化を図ってきた結果、4年間の地域ぐるみの取り組みと生産体系により、A地区では、疾病発生率の減少、上物率の上昇、厚脂、軟脂の減少傾向が認められ、生産性が向上した。</p> <p>今後の課題として、さらに実情にあった衛生プログラムの検討、汚染細菌分離、薬剤感受性試験及びヘモフィルス血清型試験を実施し、対策の検討を進める。</p>			